

令和元年度の事業概況

JAたじまの自己改革の取り組み状況（協同活動ハイライト）

JAたじまでは、中期計画 Plan 2020 を自己改革プログラムと位置付け、持続的な地域農業の維持・振興と暮らしやすい地域社会の実現に向けて、総合事業を通じた「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする自己改革に取り組んでいます。

I. 農業生産の拡大と農業者の所得増大

取組事項	具体的施策	令和元年度の取組状況・実績
直販米の販路拡大と販売体制強化	インターネット販売の拡大	ショッピングサイト「地米屋」の販売拡大（8,836 万円 対前年比 15 %増）
コウノトリ育むお米のブランド力強化	東南アジア等への輸出拡大	輸出 6 か国（米国・シンガポール・香港・UAE・オーストラリア・台湾）（対前年比 1 カ国増）
たじまピーマンの生産・販売拡大	ピーマン作付本数の拡大	作付本数は 10.1 万本と前年比微減も、収量アップにより集荷量は対前年比 22 %増
朝倉さんしょの生産・販売拡大	作付本数と販路の拡大	継続的な販路拡大に取り組み、6 年連続の販売高増（4,112 万円 対前年比 12 %増）

II. 持続的な但馬農業の実現

取組事項	具体的施策	令和元年度の取組状況
稲作におけるコスト低減支援	低コスト新技術の研究・導入	多収穫米作付の拡大（15,440 袋）
	資材コストの低減	低コスト肥料の利用促進（12,600 袋 対前年比 30 %増）
新技術を活用した稲作の効率化	ICT（情報通信技術）を搭載した農機の導入促進	圃場管理システム（Z-GIS）の大規模農家への導入促進（11 農家）

III. 但馬牛の生産振興

取組事項	具体的施策	令和元年度の取組状況
補助事業を活用した畜産振興	JAリースによる牛舎の整備	クラスター事業を活用した畜産農家の経営拡大支援
	繁殖素牛の導入	令和 2 年 2 月時点 4,013 頭（対前年比 59 頭増）

IV. 地域の活性化

取組事項	具体的施策	令和元年度の取組状況
地域に根ざした信用・共済事業の展開	次世代にとって魅力的な商品の開発と提供	JAバンクアプリの提供を開始
地域ふれあい活動への組合員の参画と活動の充実	地域ふれあい活動の活性化	地域ふれあい活動の実施 23 支店 228 件（対前年比 81 件増）
地域貢献の取組	交通安全教室の開催	スタントマンを起用した自転車交通安全教室の開催 令和元年度実績管内 2 中学校
	食農体験教室「あぐりキッズスクール」の開講	日高・村岡・和田山会場で開催 令和元年度実績 3 会場 51 名参加

JAたじま還元・助成施策実績(平成29年度～令和元年度)

《営農振興支援(助成等)実績》

(単位：千円)

No.	取 組 事 項	具 体 的 施 策	平成29年度	平成30年度	令和元年度
1	担い手農家助成	担い手応援米・業務用米出荷資材費用助成	1,256	1,427	862
2		水稻育苗利用助成	6,675	7,687	8,621
3		CE/RC 利用助成	5,981	7,126	8,287
4		肥料・農薬費用助成	11,365	11,429	12,160
5		GAP 認証・有機JAS 認証取得費用等助成	4,002	5,739	4,578
6	生 産 振 興	・ピーマン・小豆・玉ねぎ等苗代助成 ・ピーマン拍動かん水装置設置助成 ・省力栽培大納言小豆種子代助成 ・ICT 導入支援	1,891	1,819	1,479
7		・農機具購入助成 ・ハウス設置費用の一部助成	23,762	2,970	—
8		資材店舗での購入金額に応じたポイント還元	3,156	3,047	3,027
	合 計		58,088	41,244	39,014

《畜産振興支援(助成等)実績》

(単位：千円)

No.	取組事項	具体的施策	平成29年度	平成30年度	令和元年度
1	経営支援	配合飼料代等助成	3,299	2,552	1,965
2	遺伝的多様性の確保	熊波系・城崎系保留助成	400	550	450
合 計			3,699	3,102	2,415

《組合員活動支援(助成等)実績》

(単位：千円)

No.	取組事項	具体的施策	平成29年度	平成30年度	令和元年度
1	生活文化活動支援	女性会活動等助成	5,852	6,237	5,631
2	健康管理支援	町ぐるみ健診費用助成	2,082	2,067	1,867
3	組合員活動支援	地域ふれあい活動等助成	17,272	12,524	12,331
合 計			25,206	20,828	19,829

《利用者還元実績》

(単位：千円)

No.	取組事項	具体的施策	平成29年度	平成30年度	令和元年度
1	直売所活性化	たじまんまでの購入金額に応じたポイント還元	5,000	5,157	4,594

営農事業

お米の振興

- ① 生産者所得の増大と担い手農家の作期分散に向けて、早生品種の多収穫米「ちほみのり」「つきあかり」の作付誘導を行いました。
- ② 「近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール」において、持続可能な農業推進が評価され、「GLOBAL G.A.P.(※)実践部門」で近畿農政局長賞を受賞しました。
- ③ ふるさと但馬米の取り組みが 10 年目を迎え、こうのとりのカントリーエレベーターにて 10 周年記念出荷式を開催しました。
- ④ 消費者のライフスタイルにあわせたお米販売のチャンネルとして、「地米屋」サイトでインターネット販売に取り組み、多くの方にご利用いただきました。
- ⑤ コウノトリ育むお米(無農薬)のバックごはんを新たに商品開発し、首都圏、近畿圏に店舗展開するスーパーで販売を開始しました。
- ⑥ お米の海外輸出において、新たに台湾向けを開始しました。また、シンガポールとドバイの日本人学校で食育特別講座を実施するなど海外販促・PR を行いました。

特産物の振興

- ① たじまピーマンは、集荷量は前年から 22.4 %増加しましたが、過去最高値であった前年の kg 単価から平年単価での販売となったため、販売高は前年比で微減となりました。
- ② 朝倉さんしょの栽培本数の増大と集荷量の確保に取り組むとともに、展示会への出品や冷凍加工による通年販売に取り組んだ結果、販売高は 6 年連続の増加となりました。
- ③ 生産者所得の向上に向けて、TAC の提案をもとに担い手生産者を中心として大納言小豆の省力化出荷に取り組み、出荷量、販売金額ともに前年を大幅に上回りました。

営農指導・利用・資材・農機事業

- ① 本格的に取り組みをスタートした早生品種の多収穫米「ちほみのり」「つきあかり」の栽培指導や圃場巡回を各地域で実施しました。
- ② 老朽化していた豊岡育苗センターの播種ラインを更新しました。
- ③ 営農相談員や TAC が行政と連携をとりながら、集落営農組織の法人化を支援しました。
- ④ 大規模担い手農家を中心に、多収穫米の作付誘導に合わせた低コスト大型規格の農薬や、銘柄統一した肥料を提案して多くのご利用をいただきました。

直売所の活動

- ① 6 月には、開店 9 年目でのべ来店客数が 200 万人を突破しました。
- ② 北但の拠点の「たじまんま」と南但エリアの「JA ファーマーズ・たじまんま和田山」が連携し、品揃えの一層の充実につとめました。
- ③ 「たじまんま」の部会員へ栽培講習会や食品表示研修会など積極的に開催し、手取り向上に向けての提案や、情報提供を行いました。

畜産事業

繁殖和牛・但馬産肥育牛の振興

- ① 但馬家畜市場の子牛平均価格は 94 万 2,427 円となり、3 年ぶりに全国 1 位になりました。一方、価格是对前年比 8.3 %安(▲ 8 万 5,395 円)と大きく下がりました。
- ② 25 年ぶりに但馬家畜市場(養父市)で第 101 回兵庫県畜産共進会が開催され、管内から種牛の部 14 頭、肉牛の部に 10 頭出場して優秀な成績を収めました。
- ③ 但馬牛の遺伝的多様性を確保するため、計画交配により熊波系・城崎系の系統再構築に継続して取り組みました。
- ④ 畜産クラスターおよび県の但馬牛増頭促進事業等を活用し、管内の繁殖雌牛の維持・増頭につとめました。

- ⑤ 平成 31 年 2 月の「兵庫美方地域の但馬牛システム」の日本農業遺産認定に引き続き、関係機関とともに世界農業遺産への認定に向けた取り組みをすすめました。

但馬牛のブランドを高める肉の店

- ① 但馬以外の方にも但馬牛の魅力を知ってもらうため、ふるさと納税の謝礼品としての提供や、インターネット販売に取り組みました。

福祉・経済・生活事業

くらしに安心を与える福祉事業

- ① 豊岡東デイサービスセンターや七釜デイサービスセンター、豊岡ショートステイにおいて訪問介護・居宅介護支援と連携した通所介護・短期入所生活介護サービスを提供しました。
- ② 質の高い介護サービスを安定的に提供できるよう、各種研修会への参加による知識・技術習得をはかったほか、ヘルパー勉強会の充実を行い、更衣介助・ターミナルケア・口腔ケア等、スキルアップにつとめました。

くらしの安全・安心を守る生活購買事業

- ① 国産原料商品を中心とした、安全・安心でくらしに役立つ商品を、「JA くらしの宅配便」を通して女性会員や組合員にお届けしました。

快適で環境にやさしいLPガス事業

- ① 24 時間 365 日体制で、利用者の保安体制を堅持しました。特に高齢世帯への配慮として、器具の点検と安全指導を行う「シルバーサポート活動」に取り組みました。
- ② 特別料金体系を設定し、灯油ボイラーから静かで便利なガス給湯器への切り替えをすすめる「燃料転換活動」に継続して取り組みました。

健康で文化的な生活を応援する生活文化事業・旅行事業

- ① 女性会の生活文化活動や健康福祉活動、組織購買に対する支援を行いました。
- ② 組合員の健康管理の一環として、町ぐるみ健診、特定健診を実施しました。また、ふれあい祭りなどのイベント来場者に向けた骨粗しょう症健診を実施しました。
- ③ 兵庫五国(但馬・丹波・播磨・摂津・淡路)の食材を楽しむ「兵庫五国祭」を神鍋ブルーリッジホテルで開催しました。地産池消とふれあいを目的に、但馬食材を中心とした兵庫五国の食材を多くの方にお楽しみいただきました。

信用事業（地域密着型金融への取り組み）

農業メインバンクとしての取り組み

- ① 地域の農業メインバンクとして、支店とTAC が連携して「農業応援アグリマイティ―資金」の融資に積極的に取り組みました。
- ② 農畜産物の販売代金を有利に運用し農家を応援するため農家世帯支援定期貯金の取り扱いを行いました。

生活メインバンクとしての取り組み

- ① たじまの農産物が当たる JA 独自の選べる定期貯金キャンペーンを展開し、多くの方にご利用いただきました。
- ② 新たに年金を受給される方など、多くの方に年金の受給口座を JA にご指定いただきました。
- ③ 口座残高や、入金明細の確認ができる「JA バンクアプリ」の提供をはじめました。

利用者満足度の向上

- ① 組合員・利用者からの相談対応の場として、各種相談会を開催しました。
- ② 年金友の会会員へのサービスとして、誕生日・喜寿・米寿を迎えられた方へプレゼント

をお送りしました。

- ③ 年金友の会グラウンドゴルフ大会を全但バス但馬ドームで開催し、地区予選を勝ち抜いた 66 チームが出場しました。

共済事業

ひと・いえ・くるまの総合保障の拡大

- ① 世帯の保障点検活動「3Q訪問活動」を通じて、保障の普及拡大につとめました。
- ② 充実した保障で自然災害に備えるため、建物更生共済「むてきプラス」の普及につとめました。
- ③ くるまの保障の普及拡大につとめました。

もっと便利に、さらに安心

- ① 広域災害の発生に備えて損害調査体制の充実につとめました。
- ② スタントマンによる自転車交通安全教室を城崎・出石中学校で開催し、交通安全の啓発活動を行いました。
- ③ 子育て世代を応援する「JA たじま JA 共済アンパンマンこどもくらぶ」の活動として、「アンパンマンショー」を開催し、多くの方にご来場いただきました。
- ④ JA を身近に感じていただくため、夏休みのこどもたちを対象とした「熱中症対策とサイエンスショー」を開催しました。

組織面の活動

- ① 組織基盤の強化をはかるため、引き続き組合員加入運動に取り組みました。
- ② 地域ふれあい活動がより活発に行われるよう、本店に「ふれあい推進員」、総合支店に「地域ふれあい係」を配置しました。
- ③ 食農教育活動や健康増進活動、農業体験や料理教室など、地域の活性化を目指して、組合員、地域ふれあい委員会、役職員が協力して「地域ふれあい活動」に取り組みました。
- ④ 身近な話題を掲載した「たより」の発行や店頭での掲示を通じて、組合員の拠り所となる

地域に密着した支店・営農生活センターづくりにつとめました。

教育・学習の活動

- ① 農と食のつながりを楽しく学び、但馬の農業を好きになってもらうため、地元の農家などに協力いただいて、小学生を対象とした食農体験教室「あぐりキッズスクール」を3会場で開催しました。

地域貢献活動

- ① スポーツを通じた健康づくりや仲間づくりを応援するため、「JA たじま杯」として地域のスポーツ大会(少年サッカー、小学生バレーボール、婦人バレーボール、少年野球)に協賛しました。

情報・広報活動

- ① 組合員広報誌「リレーション」は『みんなで作る組合員向け広報誌』を編集方針に掲げ、組合員や JA たじまの活動を広く知っていただくための誌面づくりにつとめました。
- ② 活動レポートの更新を積極的に行い、新鮮で役立つ情報の提供につとめました。

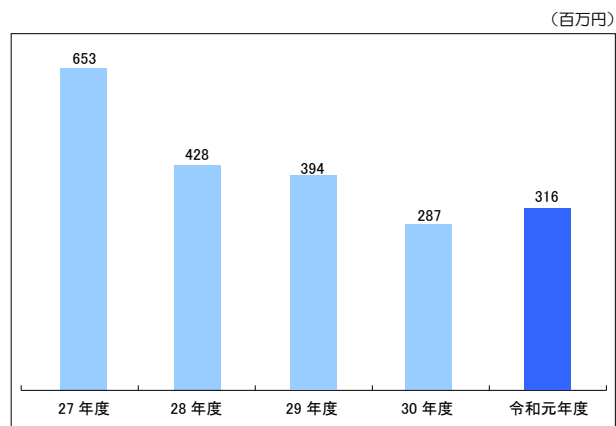
経営面の活動

- ① 不祥事の再発防止策として、各種研修によるコンプライアンス意識の向上や、事務ルールの見直しによる内部統制の強化などに役職員全体で取り組みました。
- ② 経営改善計画の検討をすすめ、一部取り組みについては先行して令和2年度から実践するための準備を行いました。
- ③ 「SDGs（持続可能な開発目標）」達成への貢献として、認定 NPO 法人フードバンク関西に対して、役職員から集めた但馬産米 170 キロを無償提供しました。
- ④ 組織・事業・経営の健全で効率的な運営に向けて、監事監査、内部監査計画に基づいた定期監査、随時監査を実施しました。

令和元年度の主な業績について

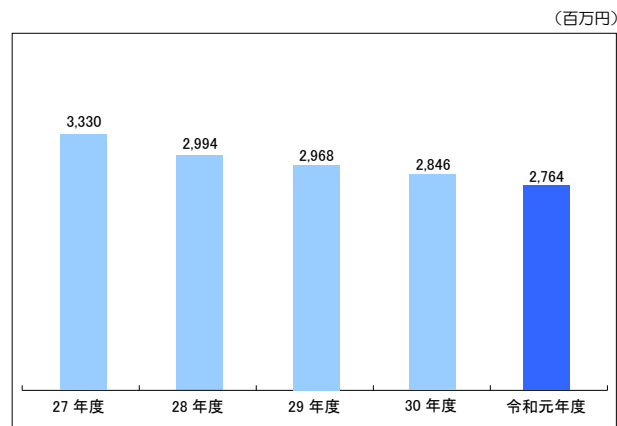
■事業利益

3 億 1,653 万円



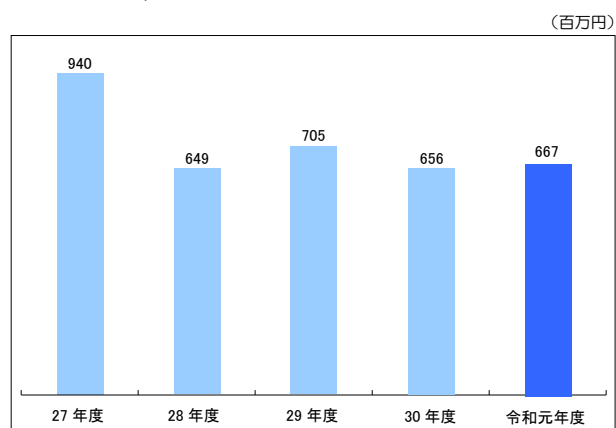
■購買品取扱高

27 億 6,491 万円



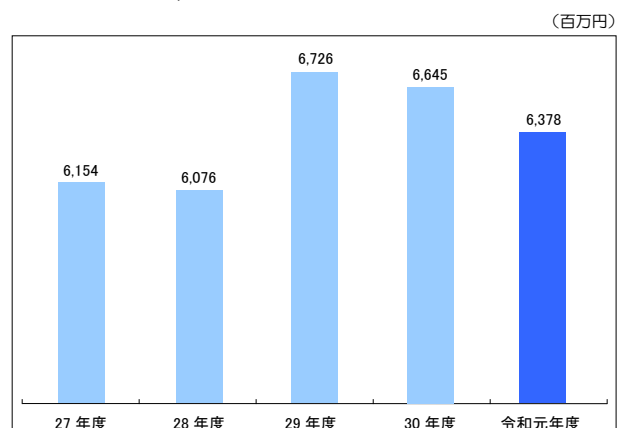
■経常利益

6 億 6,790 万円



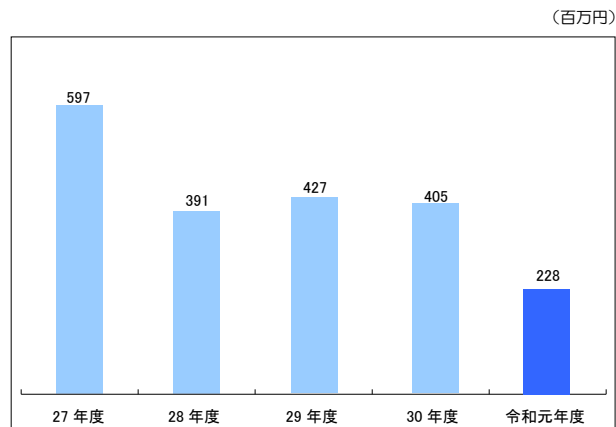
■販売品取扱高（受託販売）

63 億 7,843 万円



■当期剰余金

2 億 2,802 万円



J A たじまでは、平成 25 年度決算にかかる配当より、出資配当に加え、新たに事業分量配当を導入しています。

これは、「協同組合は利用者組織であり、組合員の事業利用によって生み出された剰余金は出来る限り組合員事業利用者へ還元する」という考えから導入したものです。

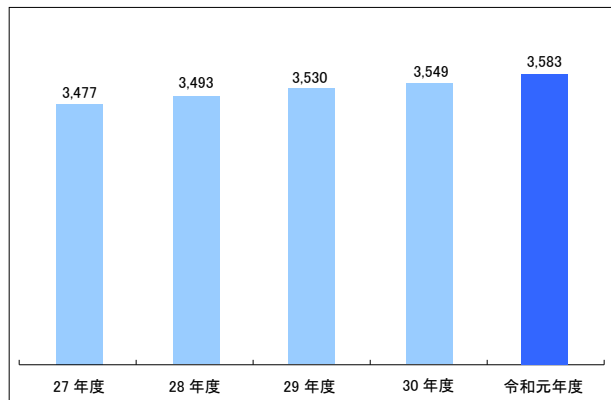
配当基準等については、42 ページの剰余金処分計算書をご覧ください。

令和元年度の主な業績について

■貯金残高

3,583 億 8,097 万円

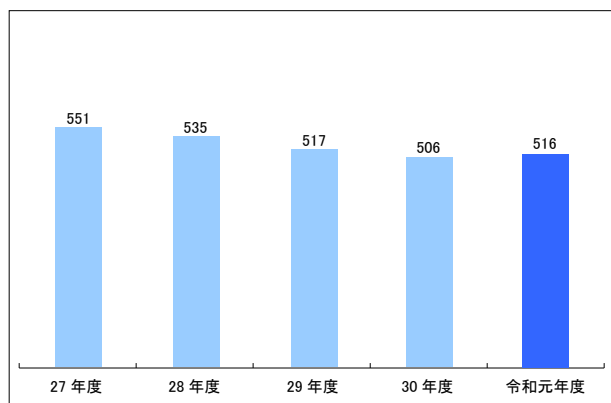
(億円)



■貸出金残高

516 億 5,856 万円

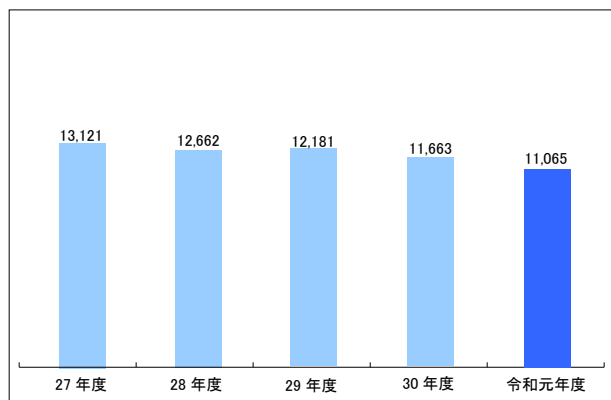
(億円)



■長期共済保有高

1 兆 1,065 億円

(億円)



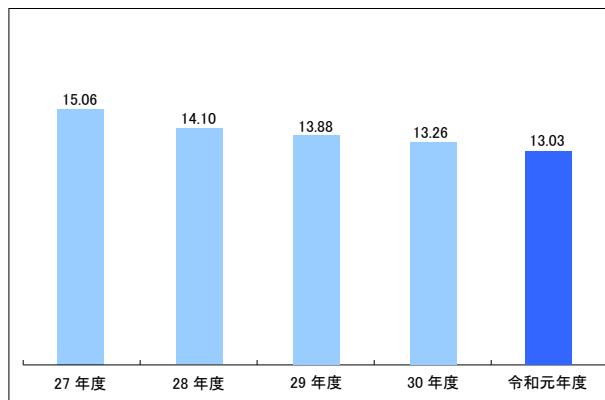
令和元年度の自己資本の状況

■自己資本比率

13.03%

当 JA では、多様化するリスクに対応するとともに、組合員や利用者のニーズに応えるため、財務基盤の強化を経営の重要課題として取り組んでいます。内部留保につとめるとともに、不良債権処理及び業務の効率化等に取り組んだ結果、令和 2 年 3 月末における自己資本比率は、13.03% となりました。(バーゼルⅢ規制に基づき算出)

(%)



■普通出資による資本調達額

項 目	内 容
発行主体	たじま農業協同組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本に係る 基礎項目に算入した額	4,383 百万円 (前年度 4,503 百万円)

自己資本の詳細については、56 ページをご覧ください。